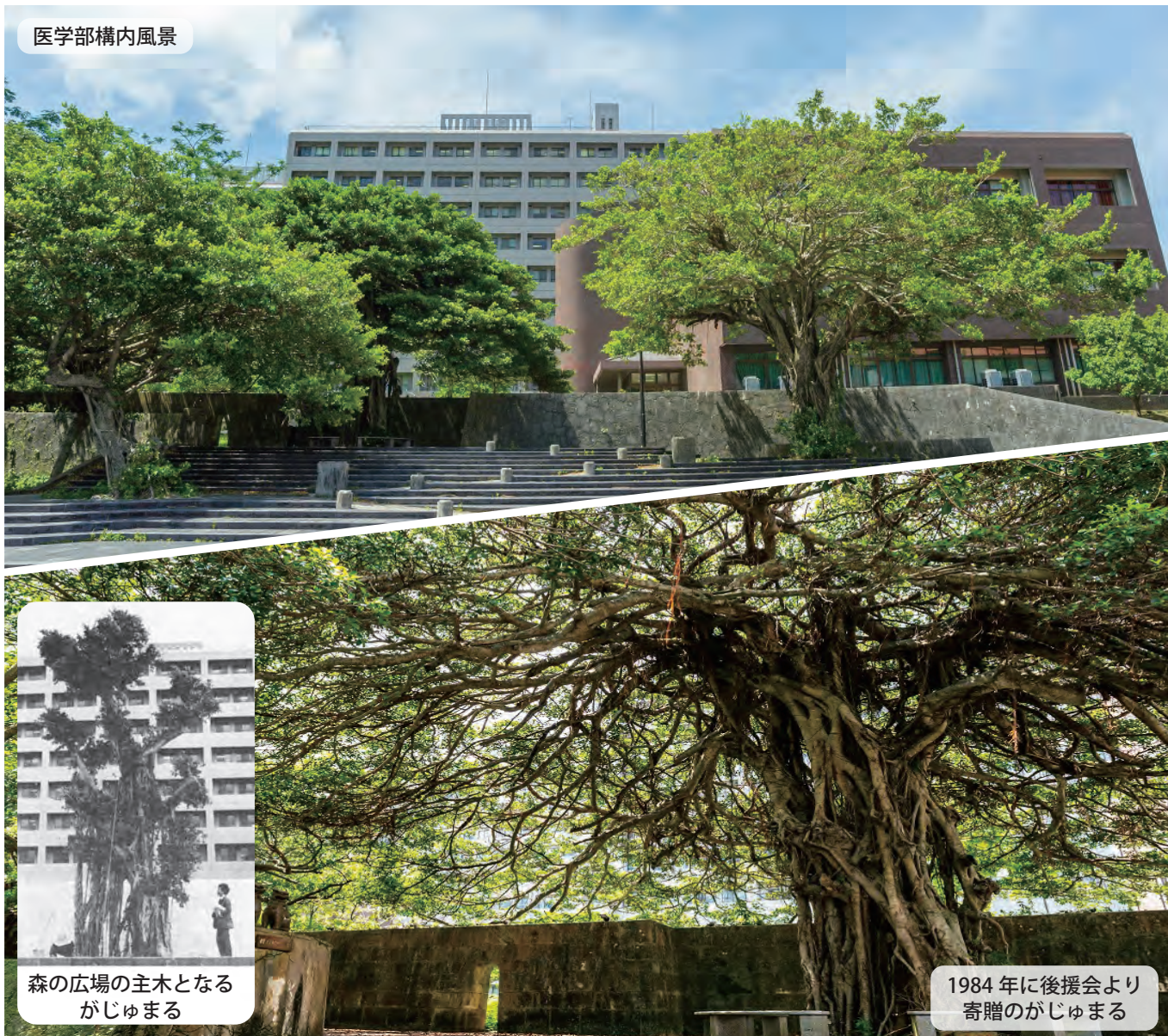


医学部構内風景



第34号

発行
琉球大学医学部
医学科後援会
会長 中石 直木
沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
電話：(098) 895-3331
(内線 2136)
印刷：新栄印刷
那覇市古波蔵1丁目32番8号
電話：(098) 855-1354



森の広場の主木となりがじゅまる

1984年に後援会より寄贈のがじゅまる

令和6年(2024年)の幕開け、新年の寿ぎを国民全体で和やかに共有している最中に、突如発生した能登半島地震における災害及び津波において、尊い命を失われた方へのご冥福とご遺族、被災された多くの皆様によりお見舞いを申し上げます。

連日の報道等でご承知のように石川県内では今なお、春を迎えるどころの話ではない方々が多くいらっしゃいます。悲惨な目に遭いながらも復興へ向けて、少しずつ健気に取り組んでいる姿を目の当たりにすると、まさしく敬意の念を抱かざるを得ません。

さらに、極限の状況下における被災者達の冷静な対応、被災地でのボランティア活動に取組む方々(琉大医学科出身含む)を各国のメディアも高く評価し、逆境でも怯むことのない、そして他を思いやる日本人の素晴らしさを賞賛しております。

そのような中で、今年度も石川県を含む全国各地から日本最南端の本学医学科へ進学されました学生、保護者及び関係者の皆様、衷心より歓迎いたします。

キャンパス内の「バルバルガジュマル」(西原上原にあるガジュマルなので勝手に命名)もその緑と鮮やかさをアピールしようとする構えがあり、南国独特の草花、樹木は、春の日差しを共有し、意気揚々と咲き誇っております。

本来なら、日本全国の人々が同じように春の恩恵を分かち合うひとときであるはずなのに、入学式はおろか、春の喜びさえも共有できない人たちがいることを私たちは心にとめておかなければなりません。

また、学生たちは入学できた喜び、幸せをかみしめ、他の人を思いやり、一人の学生でも孤立させることなく、いつでもどこでも他と協力する気持ちを持たなくてはならないと思います。

さて、本学医学科後援会は、昭和57年10月に設立されて以来、医療への道を志す学生とその保護者に寄り添い、学科全体の教育振興助成、発展にいくらかでも寄与でき

ばという思いで真摯に会の運営管理に努めて参りました。

しかしながら、去る令和3年(2021年)には、後援会設立40周年を迎えていたにもかかわらず、ご承知のとおり、コロナ禍そして本後援会史上最大の不祥事により、周年事業などの実施も叶いませんでした。現在、司法手続きを踏まえて、本不祥事案解決に尽力しているところであり、一件落着きまでの日々を粛々と送っていることも事実であります。

一方で、われわれ後援会の趣旨に共感した企業、病院、施設及び個人も続々と賛助会員に名乗りを挙げていただいております。また、寄附していただける方々も増えております。(氏名別途記載)

将来の地域医療を担う医学科学生にとつても、このような後援会賛助者が数多く存在することは何事にも代えがたく、真に心強い限りだと思われま

誠意ある賛助会員の方々に対し、本紙上を借りて多大な謝意を表すとともに、後援会として、これら貴重なご芳志を医学科学生のために有効活用していきます。

さらに、医学科学生全員が後援会の存在意義を認めていることを受けて、今後も学生の勉学、教育活動への支援を絶やさずに、保護者及び関係者との信頼関係を構築していく所存です。

文末となりましたが、医学部関係者は、ここ西原の地で40年余に渡って見守ってくれた「バルバルガジュマル」たちに別れを告げ、宜野湾市西普天間地区へ移転します。長年、慣れ親しんだ地を離れる一抹の寂しさもありませんが、来年1月には新天地での大学病院開院、引き続き4月には医学部(医学科、保健学科)が開学します。

また、先人たちの思いを受けてスタートした本後援会は、令和13年(2031年)に設立50周年を東シナ海が見渡せる普天間の地で迎えることとなります。本会が半世紀の歴史を刻む節目として、会員を中心とした設立記念式典の開催を強く切望する次第であります。



会長挨拶

琉球大学医学部医学科後援会会長 中石 直木



新入生の保護者の皆様、
ご子息・ご息女の琉球大学
医学部医学科へのご入学、
誠にめでとうございま

す。ご子息・ご息女のご入学を、心より歓迎いたします。そして、在校生の保護者の皆様、今年度も宜しくお願いいたします。

さて、私からは、①医師国家試験の成績について、②進級について、そして③琉球大学医学部と琉球大病院の移転について、お話しをさせていただきます。

まず最初に、今年の医師国家試験の成績についてお話しします。今年、新卒は、100名が受験して、96名が合格し、不合格者は4名でした。合格率は96%で、全国平均の95.4%を上回りました。既卒は、7名が受験して、5名が合格し、不合格者は2名で、既卒も良い成績でした。本医学科の医師国家試験の成績は、10年ほど前は全国最下位レベルでしたが、最近では総じて良い成績を上げることができています。この結果は、医学教育における教職員の不断の取組の成果であると自負しています。

次に、進級についてお話しします。保護者の皆様の中には医師の方が多数おられると思いますのでご存じの方も多いと思いますが、医学部は進級が大変です。昨年度は、1年生は18名が留年しました。また、2年生は8名、3年生は3名、4年生は7名、5年生は2名、6年生は3名が留年しました。1年生は、毎年、10名以上留年しています。また、昨年度から、4年次の臨床実習の前に行われているCBT(CBTとは

コンピュータを用いて知識を評価する試験のこと)とOSCE(OSCEとは臨床能力を評価する試験のこと)が、医師国家試験の受験資格要件になりました。このことを「共用試験の公的化」と呼びます。また、今後、6年次の臨床実習の後に行われているOSCEも、公的化される予定です。つまり、医師国家試験が、4年次のCBT・臨床実習前OSCEの1次試験、6年次の臨床実習後OSCEの2次試験、そして従来の医師国家試験の3次試験の3部構成になる予定です。医師になるのはますます大変になってきていますので、ご子息、ご息女には、しっかりと勉強するように、ご指導をお願いいたします。

3つ目に、琉球大学医学部と琉球大病院の移転についてお話しします。医学部と病院は、来年、ここから北に5km離れた宜野湾市西普天間地区に移転します。医学部が移転するのは全国で初めてです。この移転事業は国家プロジェクトとして進められています。最近、マスコミ報道されたので、皆さん、ご存じのことと思います。病院の開院日は2025年1月6日、医学部の開学日は2025年4月1日の予定です。移転先は、もとは沖縄に駐留する米軍の住宅地だったところで、東シナ海が見渡せる高台にあり、全室オーシャンビューの絶好のロケーションです。ご子息、ご息女は、次年度から新キャンパスで講義や実習を受けることが出来ますので、楽しみにしていたきたいと思います。

それでは、最後になりますが、ご子息、ご息女が、楽しく、そして、有意義で充実した大学生を送られることを衷心より祈念申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。



令和6年度琉球大学医学
部医学科に入学されました
新入生の皆様、ご父兄の皆様、
おめでとうございま
す。琉球大病院院長の大屋

です。医療関係のご父兄もおられるとは思いますが、病院長としてのご挨拶となりますので、僭越ですが、この場では我が国の医療において、とくに話題となっていることを3つご紹介したいと思えます。

一つ目は、医療安全の推進です。安全で安心な医療を目指すことは重要です。医療のあらゆる過程で安全が最優先される仕組みを構築することが医療機関に求められています。また、特定機能病院で行われている高度な医療技術や新しい医療の開発においても、まずは安全性を担保して行うような体制整備が必要となっています。琉球大病院も例外ではなく、これまで着実に医療安全の体制を整備してきました。しかし、「人間は誰でも間違える(to err is human)」という言葉があります。完璧を目指していても、ある一定の確率でエラーが起こるのは避けがたいという事実の中で、その確率を下げることや、仮に何かのエラーが起こっても、その連鎖を断ち切る、または、別の安全弁でエラーがより危険な状態へ向かうことを防ぐ、などのように、多重の構えの安全確保のシステムを構築することが必要とされています。個人だけではなく、

システムとして、組織として、安全性を確保していくという考え方です。このような医療安全の推進を行うには、医療者が基本的な医学知識や技能を獲得することはもちろんのことですが、加えて、コミュニケーションスキルやチームワークを行う力が必要になります。琉球大学では1年次のときから医療安全に関連した学修を提供しています。

また、このような学びをサポートする施設として、琉球大学には「日本一」とされる「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」があります。ここでは、医療現場を模擬状態として再現することで、より効果的に知識や技能の獲得ができるだけではなく、前述したコミュニケーションやチームワークについても学ぶことができます。最先端の施設ですので、機会がありましたら、ぜひ一度見学してみてください。

二つ目は、医師の働き方改革です。国民の医療に対する期待と、従来からの医師の責任感の強さから、近年、医師の過重労働の状況はさらに悪化しています。厚労省で対策が考えられてきましたが、医師の絶対数が不足した状況で、国民にとってアクセスしやすい医療システムを保持しないといけないというジレンマの中で、抜本的な改善策を作ることには難しい状況でした。

しかし、いよいよ新しい医師の労働基準も公表され、令和6年4月からは医療機関が責任を持って、医療者が健康を保持しながら、意欲を持って仕事に打ち込み、そして自身を成長させることができる労働環境を作らなければいけません。今年

度入学された新入生の皆さんが働く頃には状況は改善していると思いますが、学生の段階から、医師としての基本を大事にしながらも、多様な働き方を考えることやDXを取り入れた新しい働き方を身につけなくてはいけません。

三つ目は、医師不足、地域偏在、診療科偏在の問題です。医師数については、最近の医学部の定員増により、全国的にはほぼ充足できる数になってきました。一方、地域偏在と診療科偏在は、まだまだ改善にはほど遠い状況です。自治医科大学や各大学に作られた地域枠は地域偏在対策の一つです。すでに琉球大学の地域枠卒業生たちが沖縄の各地で活躍しています。琉球大学の教育方針では、地域枠の医学生に限らず、すべての医学生に、地域で働くことの楽しさや学びの深さを積極的に学んでもらうことにしています。地域医療を学ぶことは、医療の基本・原点を守ることであり、医師としてのプロフェッショナルリズムを育てることに最も近いと考えています。

以上、現在医療の問題点と沖縄における研究体制改善にむけた取り組みの一部をご紹介します。入学される新入生や在生には、そのような状況があることを理解していただきつつも、まずは学び、友人を作り、さまざまな社会経験を通して、自分を磨いていただくことが第一歩と考えています。楽しく充実した学生生活ができるよう、私どもも頑張っていますが、引き続きご父兄・家族からのサポートをお願いして、私からの挨拶とさせていただきます。



法医学講座
二宮 賢司
教務委員長・学生生活委員長



令和6年度琉球大学医学部医学科、新一年次及び学士編入生の皆さん、ならびに保護者等の皆様、この度はご入学大変おめでとうございます。教務委員長ならびに学生生活委員長を拝命しております。法医学講座の二宮賢司と申します。私も平成20年に琉球大学を卒業した身で、卒後約15年ということになります。同窓生としても皆様を歓迎いたします。

新入生の皆さんは、これから修学にせよ学生生活にせよ、今までとは大きく異なる環境に入っていくこととなります。またそれらの多くの場面で自ら考えて行動することを求められます。ただ、大学もそのサポートをする体制を整えていることをよく覚えておいてください。長い大学生活になりますが、皆さんの琉大での日々が充実したものになるよう、教務委員会・学生生活委員会がサポートいたします。今回は、これらの委員会がかかわる事項について、紙面をお借りして少し紹介をさせていただきます。

1. 教務委員会関連

本学医学科にて実施される教育については、その方針は URGCC (University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum : 琉球大学グローバルシティズン・カリキュラム) や卒業時コンピテンス (卒業時まで修得すべき医師としての基本的な資質と能力) を基に行われます。これらは履修要項等に示されており、大学ホームページ (https://rais.skr.u-ryukyu.ac.jp/dc/?page_id=18540) でも確認できますので、どうぞ一度ご覧ください。

また日本の医師養成機関にとって重要な

指針として、文科省の策定する「医学教育モデル・コア・カリキュラム」が挙げられます。この「医学教育モデル・コア・カリキュラム」は医学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)に関する学修目標等を示したものです。各大学はこの方針に沿って医学教育を行い、医師国家試験の出題基準としても用いられます。日本の医学教育は、医学の進歩や日本社会の変遷などに合わせて日々修正されており、この「医学教育モデル・コア・カリキュラム」も令和4年度に大幅に改訂されました。卒業までに受けるべき試験については、学内で科目ごとに課されるもののほか、CBT(Computer Based Testing) や OSCE(Objective Structured Clinical Examination) もあります。これらは共用試験と呼ばれ、一種の全国統一試験であり、医学科を卒業し医師国家試験を受験するうえで必ず合格しなければいけないもので、同様に「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を参考に作られます。さらには前述の通り、このカリキュラムには知識や技能のみでなく、プロフェッショナルリズムといった態度も含まれます。これからどういったものを身につけることを求められているのかを大まかに把握するためにも、この「医学教育モデル・コア・カリキュラム」について、ざっとで良いので目を通していただくをお勧めします。

また琉球大学医学部医学科では、令和5年度の新1年次から、一般コースと地域医療コースを設けています。一般コースは一般選抜及び第2年次特別編入学選抜で、地域医療コースは学校推薦型選抜IIで入学した学生が振り分けられます。両コースは基本的に同じカリキュラムで進むのですが、一部の科目内容が異なります。地域医療コースでは、低学年次から地域医療が必要となるプライマリ・ケアを学ぶ科目が始まります。また、一般コースは学生が主体的に学ぶアクティブラーニング科目を充実させていく予定です。

2. 学生生活委員会関連

学生生活委員会の任務は一言で申しますと、学生が安心して勉学に励む学修環境を提供することです。具体的には主に以下の6つの事項が挙げられます。

- ・ 学内での不慮の災害・事故などに対する学生保険への加入案内や、実習前のワケチン接種などが挙げられます。この費用については後援会からも一部援助をいただいております。
- ・ 課外活動に関すること
医学部には約30の体育系あるいは文化系サークルがあります。これらの通常の活動に対しては勿論、医学部には九州山口地区や西日本地区の体育大会があり、この運営に対しても後援会からは多くの援助をいただいております。
- ・ 新型コロナウイルス感染症のため、ここ数年は満足に大会を開催できる状況ではありませんでしたが、今年度は概ね以前通り実施されるものと期待しております。
- ・ 奨学金などに関すること
琉大には奨学金や授業料免除などの制度が複数あります。これらの制度を有効に活用し、必要に応じ支援を受け有意義な学生生活にして欲しいと思います。詳細は上原キャンパス事務部学務課の学生支援係にお気軽にお問い合わせください。
- ・ また、奨学金受給者や授業料免除者の決定にはしばしば成績が関与しますので、保護者等の皆様には学業成績にも関心を持って見守っていただければ幸いです。
- ・ 福利厚生に関すること
福利厚生施設については、限られた予算内でできるだけだけの対応をするように努めております。
- ・ 表彰及び懲罰に関すること
表彰については、卒業時の医学科総代の決定、優秀サークルの表彰推薦などを担当

しています。懲罰については将来に大きな禍根を残す可能性があり、保護者等の皆様にも是非知っておいて欲しいと思います。特に医師国家試験との関係で問題になるのは罰金以上の刑罰です。代表的なものに酒気帯び運転、速度違反などの交通違反があります。

例えば、交通裁判所で罰金刑、いわゆる赤切符を受けるなどした場合、退学を含めた処罰が下る可能性があるとともに、医師免許証発行が遅れる場合もあります。

・その他相談に関すること

6年間の学生生活の間、大半の学生が大なり小なりトラブルを抱えることになるでしょう。大学には指導教員制度があり、医学科では、教員が各々学生10名程度を担当しています。教員に相談するのが適切と思われる事柄は勿論、誰に相談すればよいか分からない様な事柄も、必要とあらば指導教員にご相談ください。当委員会では学生をサポートする体制作りに努めています。保護者等の皆様との連携が重要です。学生の異変を感じた場合には、遠慮なく前述の指導教員へご連絡ください。

医学科はしばしばカリキュラムが過密であると言われます。進級できず留年する学生や、医師国家試験に合格できない学生が一定数いるのは事実ではありません。しかし、本医学科に入学された皆さんには、無事卒業し医師国家試験を突破する能力が備わっているものと確信しています。大学生活は平板ではないでしょうが、皆さん乗り切ってくれるものと期待しています。そのためにも何かあった場合は遠慮なく大学が準備したサポートを活用してください。

以上、教務委員会・学生生活委員会に関する事項について簡単に紹介させていただきました。両委員会の活動には後援会から多大なご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。今後とも会員の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



医学教育企画室長
細菌学講座・教授
山城 哲

令和6年度琉球大学医学部医学科、新入生および学士編入生の皆様、並びに保護者の皆様、ご入学誠にありがとうございます。

今年度4月に医学教育企画室長を拝命いたしました。細菌学講座の山城哲と申します。私は琉球大学医学部医学科の第2期卒業生であり、1993年からJICA専門家としてカリブ海のドミニカ共和国、1996年からはラオスで開発援助に携わってまいりました。米国NIHに留学後、2000年から5年半、大分医科大学で准教授を務め、その後長崎大学熱帯医学研究所で教授およびベトナム拠点長として感染症研究に従事いたしました。2016年から母校に戻り、研究と教育に携わっております。

医学教育企画室、医学教育の質の向上を図ることを最大のミッションとし、企画室長の私と2名の医学教育専門教員、38名の兼任教員が配属されております。医学教育は医学における最新の知識と技術を身につけることが基本ですが、近年では患者に寄り添ったケアやチーム医療の推進、継続的な学習と自己研鑽が求められています。

企画室では、時代の要請に沿った医学教育を提供するため、カリキュラムの改善や評価、学生主導の学習法の推進、臨床実習の支援、全国的な共用試験の支援を行っております。具体的には、1年生では、患者さんの症状を看護師、臨床検査技師コース学生等とともに体験する「シミュレーション演習」、臨床教室の教授

から講義を受ける「医学概論」、病院受付から受診までのプロセスを患者さんに付き添って体験する「外来患者付き添い実習」を学びます。2年生では、高齢者の療養型施設を体験する「体験学習」に臨みます。3年生では全国的に有名な「離島地域病院実習」で、国境に接した沖縄県の離島や僻地医療の現状をリアルに体験いたします。4年生では、臨床実習が始まりますが、その前に、コンピュータを用いた医学知識の試験(CBT: Computer-Based Testing) および臨床実施前客観的臨床能力試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination)の2つの共用試験(全国共通の医学生向けの試験)に合格しなければなりません。企画室ではそれらに対応するために、臨床実習前に身につけておくべき患者さんの身体的検査法(BPE: Basic Physical Examination)講義・実習等、その支援を行います。また併せて救急車同乗実習(救急医学講座担当)、医療チームで協議して問題解決を図る「TBL (Team-Based Learning) チューリアル」を実施いたします。臨床実習が始まりましたが、学生は成長していく過程でいくつかの悩みを抱えることがあります。そのような際にも、企画室教員は学生の相談にのるようにはしております。

また、琉球大学では医学部の目標に沿って、琉球大学の海外の提携校での臨床実習や逆に提携校学生の琉大病院での実習を推進しております。これまで多くの学生が異なる環境で臨床実習を行ってきており大きな成果を上げてきております。企画室ではその支援も積極的に行ってきております。

このように、医学教育企画室では医学生と向き合い、時代の要請に沿った医師や医療系専門職の育成に日々努めております。



令和5年度卒業式及び
医学科学学位記授与式

琉球大学の卒業式及び医学科学学位記授与式が無事挙行され、医学科一〇〇人が巣立ちました。



令和5年度卒業式典
日時：令和6年3月19日(火) 11時～
場所：沖縄コンベンションセンター展示棟



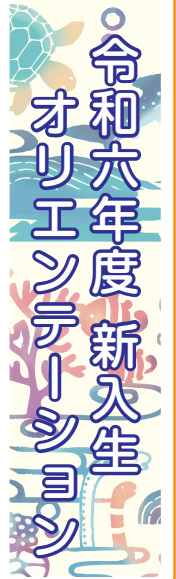
令和5年度医学科学学位授与式
日時：令和6年3月19日(火) 15時～
場所：医学部臨床講義棟2階大講義室



日時…令和六年四月四日(木) 十一時
場所…沖縄コンベンションセンター展示場
琉球大学の入学式が挙行されました。
医学科は本年度一七名(二年度学士編
入学者含む)の新たな入学者を迎えました。



令和六年四月三日(水)、新一年次及び学
士編入学生のオリエンテーションを臨床講
義棟二階で行いました。
オリエンテーションでは、医学科長等の
挨拶や1年次の指導教員の紹介等を行いま
した。
また、オリエンテーション終了後には、
各班に分かれて、班長、年次長及び副年次
長を選出しました。



第118回 医師国家試験合格状況

新卒受 験者数	合格 者数	合格率 (%)	既卒受 験者数	合格 者数	合格率 (%)	受験者 総数	合格 者数	総合計 合格率%	全国合格率	
									新卒(%)	総合(%)
100	96	96.0	7	5	71.4	107	101	94.4	95.4	92.4

試験日：令和6年2月3日(土)～4日(日)
合格発表：令和6年3月15日(金)

(参考) 令和1年度～令和4年度卒業生

	新卒受 験者数	合格 者数	合格率 (%)	既卒受 験者数	合格 者数	合格率 (%)	受験者 総数	合格 者数	総合計 合格率%	全国合格率	
										新卒(%)	総合(%)
第117回	126	123	97.6	10	7	70.0	136	130	95.6	94.9	91.6
第116回	110	103	93.6	6	3	50.0	116	106	91.4	95.0	91.7
第115回	122	117	95.9	11	10	90.9	133	127	95.5	94.4	91.4
第114回	108	100	92.6	9	6	66.7	117	106	90.6	94.9	92.1



就職状況 (令和3年度～令和5年度)

	沖縄県内								沖縄県外								国家試験 不合格者	就職先 不明
	卒業生数		琉球大学病院		公立病院		その他法人等		大学病院等		公立病院		法人		その他法人等			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
令和5年	61	39	5	5	8	9	16	6	6	3	7	4	0	0	12	10	4	5
	100		10		17		22		9		11		0		22			
令和4年	74	53	4	5	7	14	22	19	5	4	3	4	3	0	26	7	3	1
	127		9		21		41		9		7		3		33			
令和3年	67	43	3	7	9	8	18	7	3	3	4	5	3	2	19	8	7	4
	110		10		17		25		6		9		5		27			
小計	202	135	12	17	24	31	56	32	14	10	14	13	6	2	57	25	14	10
合計	337		29		55		88		24		27		8		82		24	

1. 大学病院等：大学附属病院、附属施設等を含む。 2. 公立病院：県立、市立病院
3. 法人：独立行政法人、国立研究開発法人、地方独立行政法人等 4. その他法人等：3. 以外の法人など

令和5年度 会務報告

年月日	会議内容	開催場所・時間
令和5年5月16日(火)	第1回 後援会理事会 【議題】 1. 役員の選出・委嘱について 2. 後援会の運営について 3. 医学科後援会だよりの発行について	医学部がじゅまる会館 中1階 売店隣 18時30分～20時41分
令和5年7月3日(月) ～7月7日(金)	第2回 後援会理事会 【議題】 1. 令和4年度会務、事業報告、決算報告書について	書面会議(メール)
令和5年9月5日(火)	第3回 後援会理事会 【議題】 1. 後援会の運営について	医学部がじゅまる会館 中1階 売店隣 (対面) 18時30分～19時45分
令和6年3月21日(木)	第4回 後援会理事会 【議題】 1. 令和6年度事業計画及び予算書(案)について 2. 琉球大学医学部医学科後援会横領事案について 3. 令和6年度定期総会について 4. 令和6年度役員選出・委嘱について	医学部がじゅまる会館 1階 売店隣 (対面) 18時30分～19時50分

令和5年度決算報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(単位円)

大科目	小科目	決算額	備考
収入の部			
I. 会費収入		8,375,000	
	1. 正会員会費収入	8,265,000	正会員89人×90,000円、3人×75,000円、1人×30,000円
	2. 賛助会員会費収入	110,000	5人×20,000円、1人×10,000円
	3. 特別会員会費収入	0	
II. 寄付金、その他の収入		152,161	寄附金(150,000円)、受取利息(61円)、 学研災保険料払い戻し(2,100円)
III. 返済金		0	
	当期収入合計	8,527,161	
IV. 前年度繰越金		3,136,065	R4 年度繰越金
	合計	11,663,226	
支出の部			
I. 事業費		5,244,222	
	1. 医師国家試験対策援助費	1,961,140	模試援助費：冬メック(970,970円)テコム(990,170円)
	2. 教育研究協力費	991,770	CBT・OSCE 受験料(976,770円)、 解剖体慰霊祭供花代(15,000円)
	3. 福利厚生費	723,740	学研災保険加入料(559,020円)、 インフルエンザワクチン接種代(139,800円)、 卒業アルバム費(17,000円)、卒業関係協力費(7,920円)
	4. 課外教育援助費	1,404,772	九州・山口医科学生大会総務分担金(R5・R6年分： 401,187円)、西医体総務分担金(150,770円)、西医体競技 分担金(836,215円)、全医体総務分担金(16,600円)
	5. 広報活動費	162,800	後援会だよりの発行
II. 管理費			
	6. 管理費	519,653	
	(1) 会議費	1,503	理事会飲み物代等
	(2) 事務費	187,380	後援会だより・文書発送料(169,462円)、 書類等発行手数料(2,728円)、レターパック代(890円)、 封筒代(14,300円)
	(3) 人件費	0	
	(4) 弁護士	330,770	横領告訴事件の着手金
	(5) 雑費	0	
	当期支出合計	5,763,875	
III. 次年度繰越金		5,899,351	R6年度繰越金
	合計	11,663,226	

令和6年度 琉球大学医学部医学科 後援会定期総会について(ご報告)

令和6年4月4日(木) 16時10分～医学部臨床講義棟2階の大講義室にて定期総会を開催しました。

主な審議事項は左記のとおりであり、出席者の過半数の賛成をもって可決されましたのでご報告いたします。

1. 会長選出の承認及び役員委嘱の報告
2. 令和6年度事業計画及び予算書承認
3. 琉球大学医学部医学科後援会横領事案について

令和5年度 会計監査報告について

令和6年6月18日(火) 監事2名による会計監査を行い、決算書をはじめとした会計書類を対象に、後援会の会計処理が適切に行われているか、事業の実施に問題がないかを監事2名に資料を確認してもらいました。その結果、適正に処理されていることを認める監査報告書の提出がありました。

その後、6月21日(木)～6月26日(水)の期間で、第1回後援会理事会を書面会議で開催し、令和5年度の会務、事業報告及び決算報告書等につきまして、承認となりましたことをご報告いたします。

令和5年度 事業報告

1. 医師国家試験対策援助費
 - (1) 国試対策に係る模擬試験受験料に対する援助
2. 教育研究協力費
 - (1) CBT、OSCE 受験料に対する援助
 - (2) 琉球大学解剖体慰霊祭での供花の費用
3. 福利厚生費
 - (1) 学生教育研究災害障害保険へ加入する費用(全新生、6年間分)
 - (2) 離島実習や臨床実習がある学年を対象にインフルエンザワクチン接種の援助
4. 課外教育援助費
 - (1) 西日本医科学生総合体育大会の参加に要する参加費援助
 - (2) 九州・山口医科学生体育大会の参加に要する参加費援助
5. 広報活動費
 - (1) 後援会だよりの発行に対する費用
6. 管理費
 - (1) 後援会の事務処理に要する費用や人件費用等

- (3) 卒業式関係協力費
- (4) 卒業アルバム購入費

令和6年度予算書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和6年4月4日(木) 後援会定期総会承認

Table with 6 columns: 大科目, 小科目, 予算額(a), R5実績額(b), 差異(a-b), 備考. Rows include 収入の部 (I. 会費収入, II. 寄附金, III. 返済金, IV. 前年度繰越金) and 支出の部 (I. 事業費, II. 管理費, III. 予備費, IV. 繰越金).

令和6年度事業計画

令和6年4月4日(木)後援会定期総会承認

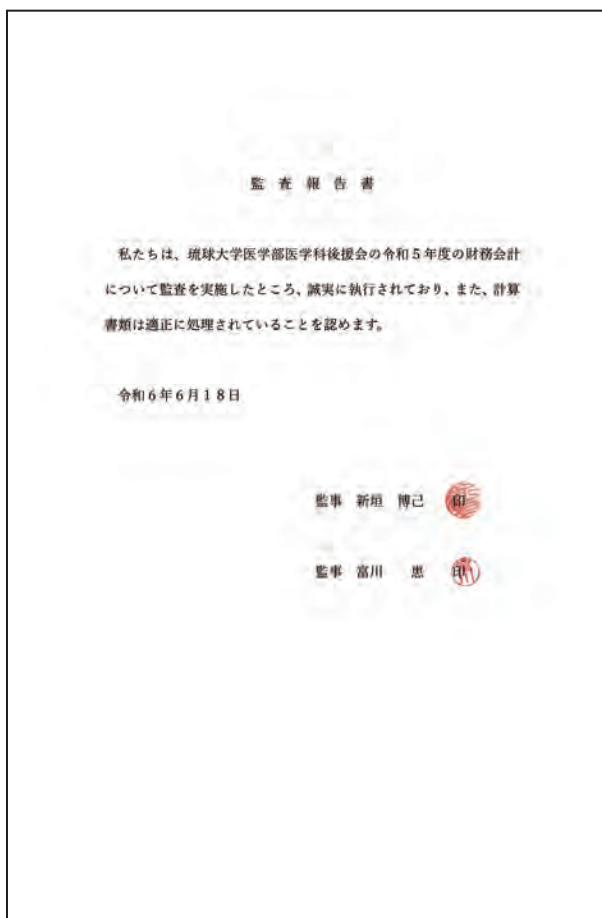
- 1. 医師国家試験対策援助費
(1) 国試対策に係る模擬試験受験料に対する援助
2. 教育研究協力費
(1) CBT、OSCE受験料に対する援助
(2) 琉球大学解剖体慰霊祭での供花の費用
(3) 海外臨床実習(提携校)の臨床実習参加者に対する賠償保険加入への補助
(4) だいが会が行う医学実習用解剖体確保の為に活動協力費
3. 福利厚生費
(1) 学生教育研究災害傷害保険へ加入する費用(全新入生6年間分、学士編入生5年間分)
(2) 離島実習や臨床実習がある学年を対象にインフルエンザワクチン接種の援助
(3) 卒業式関係協力費
4. 課外教育援助費
(1) 西日本医科学生総合体育大会の参加に要する参加費援助
(2) 九州・山口医科学生体育大会の参加に要する参加費援助
(3) 九州・山口医科学生体育大会の理事である教員が関係会議に出席するための費用
(4) 各クラブ活動援助費
(5) 1年次及び4年次合宿研修に対する援助
5. 広報活動費
(1) 後援会だよりの発行に要する費用
6. 管理費
(1) 後援会の事務処理に要する費用や人件費用等

横領事案への対応状況について(ご報告)

令和6年6月30日現在

横領事案について、定期総会(4月4日開催)で発覚の経緯、概要の報告及び今後はこのような事案が再び発生しないように、再発防止を講じ、管理体制の強化と皆様の信頼を一日も早く回復できるよう全力を尽くすとの説明を行いました。

令和5年8月、弁護士と後援会関係者で浦添警察署へ刑事告訴状を提出し、現在、警察が捜査中です。本件は今後、裁判となる見込みのため、後援会だよりでの詳細な報告は控えさせていただきます。



貸借対照表 (Balance Sheet) for 令和6年3月31日現在. Table with columns for 資産の部 (Assets) and 負債の部 (Liabilities), including items like 現金預金, 借入金, and 負債合計.

学生生活総合保険への加入

実習等における安全確保及び事故防止の為のワクチン接種等と同様に、実習に必須なものとして「保険」への加入があります。保険への加入は当大病院ではもとより学外実習先でも義務となっております。

学生が安心して学生生活を送る為に、当医学科の学生については次の2つの保険の加入、の案内を行っています。

- 学生教育研究障害災害保険（学研災）
- ・全員一括加入：医学科後援会で入学時に手続き。医学科後援会にて費用負担。

学研災は、学部を問わず、学生が正課（大学の管理下）活動、学校行事、指定された課外活動時に起こった事故による地震のけが等が対象となるものです。（保険期間6年間）

- 学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）
- ・加入内容を選択：各自で加入手続き。費用は自己負担

実習に必須な対人・対物への賠償のみならず、24時間自身自身の補償も網羅した保険になります。医療機関の窓口で負担した（保険適用後の支払い分）費用も保険として支払われる等、手厚い保険となっております（対象外となる症例もありますのでご確認ください）。

【留意点】

保険加入は、安心の為の備えですのでお忘れにならないよう、早々に加入（手続き）頂きますよう、ご案内いたします。医学科学生へは入学手続き書類と一緒に保険加入の案内（パンフレット含む）を同封しています。未手続きで、お手元がない場合は学務課窓口で入手ください。

※保険の加入期間に注意しましょう。

学研災、付帯学総、何れも入学時に加入すれば期間は6年となります。万が一6年間の在籍年数を超える場合は、6年間の在籍期間が終了する前（該当年度の3月中）に各自で追加の加入手続きを行う必要があります。

賛助会員・ご寄附の御礼

令和6年7月12日現在 琉球大学医学科後援会の運営の為、左記の皆様からご支援いただきました。ご報告と共に心より厚くお礼申し上げます。（敬称略、順不同）

【賛助会員】

- ・大城雅之 ・医療法人タピック
- ・医療法人奨進会東部クリニック
- ・㈱琉球銀行取締役頭取島袋健
- ・地域独立行政法人那覇市立病院
- ・医療法人心和会介護施設おひら
- ・㈱沖縄銀行取締役頭取山城正保
- ・医療法人麻の会理事長田名毅
- ・医療法人安心会愛聖クリニック
- ・泉川良範 ・学校法人北九州予備校沖縄校

【ご寄附】

- ・米須さおり ・中石友禧子 ・宮里惇吾
- ・瑞慶山繁美 ・名嘉真竜馬 ・大久保宏貴



幹事	参与(特別会員)	参与(特別会員)	監事	顧問	理事(1号)	副会長	会長
安座間喜達 (学生支援係長)	大城紋子 (学務課長代理)	眞喜志睦 (学務課長)	富川恵 (41期生)	新垣博己 (41期生)	大瀨裕司 (39期生)	大城勝 (43期生)	中石直木 (36期生)
					福嶺明 (37・39・42期生)		
					赤嶺彬 (40期生)		
					親泊次子 (41期生)		
					儀間洋一 (41期生)		
					饒平名知史 (42期生)		
					呉屋良信 (43期生)		
					金武朝成 (44期生)		
					下地律子 (44期生)		
					山城哲 (医学科教員)		
					宮城力 (37期生)		
					筒井正人 (医学部長)		
					大屋祐輔 (病院長)		
					大野真治 (医学科教員)		
					二宮賢司 (医学科教員)		

お知らせ



学生生活に必要な情報は、下記のURLから琉球大学教務情報HPへ <https://rais.skr.u-ryukyu.ac.jp/dc/>



移転関係については、下記のURLから琉球大学上原キャンパス事務部HPへ <https://igbyjim.jim.u-ryukyu.ac.jp/gakumu/campus-iten>



後援会については、下記のURLから医学科後援会HPへ <https://igbyjim.jim.u-ryukyu.ac.jp/gakumu/igakka-kouenka>

